

よえもん

2017年1月

第45号

今月のことば

シリーズ
よえもん

～伝わる話～
村人からの相談

武士をやめてからの藤樹は酒の商いをしました。藤樹は多くの知識をもっている上に親切であったので村人たちは酒を買いに来るだけでなく、様々なことで相談しに来ました。

ある日のことです。お酒を買いに藤樹のもとへやってきた村人が「こう言いました。「与右衛門さん、われは一つ困っていることがあるのだが。」というのは方木にある田んぼの川ぶちの石がきか、いくら積み直しても、大雨がくるとすぐにくずれてしまう。何かよい知恵はありませんかな。」これを聞き、「それはや、かいなことだ。こうしてみてもどうかな。石がきの下に松のくいを五、六本打ちこんでみれば、じょうぶになると思わ、どうだろうか」と、藤樹は答えました。村人はなるほどと藤樹の答えにうなずきながら、「それなら簡単にできそうです。さっそく試してみましよう。与右衛門さんよい知恵をかしてもらってありがとうございます。」と喜んで帰りました。

それから間もなく、その村人は藤樹に教えられたとおりに石がきを積み直してみると、台風や大雨にもひくともしませんでした。こんなことがきっかけで、村人たちは村の行事や、家の中のものごと、家族の病気のことまで相談に来るようになりました。藤樹の所を訪れる人は、たれもが満ち足りた明るい気分になりました。



「論語」衛霊公第一五

書・淵田瑞穂さん

己の
人の
敬せざる所は
施すこと勿れ

「自分のいやなことは、人にし向けないようにし、自分の好きなことは、人にもしたらよい。」という意味です。孔子は、「終身行ふべきことは何ですか。」と弟子に尋ねられた時に、「それは、慈(思いやり)である。」と答えています。私たちは、人に対して、一生、思いやりの気持ちを持ち続けることが大切です。

* 記念館だより *

新年明けましておめでとうございます。

今年も中江藤樹記念館をよろしくお願い致します。

2017年の干支は酉ですね。とりとえば「孝経を大切にしていた藤樹は鶏鳴の時から門人たちと孝経を拝誦することが一日のはじめだった」と言われています。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL/FAX (0740)-32-0330

